

市長記者会見記録

日時：2022年12月6日（火）14時00分～14時12分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：市政一般

<内容>

《市政一般》

【司会】 ただいまより定例市長記者会見を始めます。本日の議題は市政一般となっております。それでは、早速質疑に入りますが、進行につきましては、幹事社各社の皆様、よろしく願いいたします。

《サッカーワールドカップについて》

【東京（幹事社）】 幹事社の東京新聞です。よろしく願いいたします。サッカーのワールドカップで日本は惜しくも敗退いたしましたけれども、その中でも川崎市にゆかりのある選手の活躍が全国的にも注目がされたかなと思いますが、市長としては、どのように今大会を受け止められていらっしゃいますでしょうか。

【市長】 そうですね。まず、川崎出身、川崎ゆかりの選手がこれだけ世界の大舞台で大活躍されたということを本当に誇りに思います。

それと、日本代表の話ですけれども、よくベストエイトで次なる景色をみたいな話がありましたけれども、私からすると、もう既に次なる景色を見たというか、ドイツ、スペイン、それからクロアチアとすばらしい戦いを見せていただいて、そういった意味では、もう次元の違う、これまでとは違う境地を切り開いた、新しい歴史を切り開いたんじゃないかなと思います。本当にすばらしい感動を届けていただいて、とても感謝して、感激しました。

【東京（幹事社）】 ちなみに、市長、今日の試合は御覧になったのでしょうか。

【市長】 はい。

【東京（幹事社）】 どちらで……。

【市長】 自宅で、はい。

【東京（幹事社）】 リアルタイムで御覧になったと。

【市長】 はい。

【東京（幹事社）】 今日は寝不足で。

【市長】 寝不足ですね、はい。

【東京（幹事社）】 ちなみに、以前はワールドカップで活躍された選手にスポーツ特別賞を贈呈されたこともあったかと思うんですけれども、今回の大会に出場された選手への贈呈など、現時点で考えていらっしゃるのでしょうか。

【市長】 昨日の今日ですから、ちょっとこれから考えなくちゃいけないんでしょうけれども、何かいろいろ規定みたいなものがあるらしいんですが、そんなことよりも、市の特別賞だとかという以上に、もう本当に気持ちとしては国民栄誉賞でも差し上げてくださいますかと思うぐらいの大活躍だったと思うので、市の規定は規定でちょっと見なければなりません、まだ昨日の、今朝の話ですから、まだ考えておりませんが、

【東京（幹事社）】 じゃ、今後検討……。

【市長】 そうですね、はい。ということなんですけれども、何かいろいろあって、前回の成績を上回るとかなんとか、そういうのがこれまでの通例であって、そうすると、何かちょっと今までのルールと違うみたいな話になっちゃうんですけれども、市の特別賞とかというレベル感でもないのかなという、もっとももっとすごいことを、快挙を成し遂げてくれたと思っています。

【東京（幹事社）】 ありがとうございます。

《「川崎市差別のない人権尊重のまちづくり条例」について》

【共同（幹事社）】 幹事社の共同通信です。よろしくお願ひします。差別禁止条例の成立から間もなく3年となります。条例制定による現状の抑止効果などの御認識と、まだネット上での強制力がないということで書き込みが一部残っております。そういった今後の課題について、2点お聞かせください。

【市長】 はい。明らかに条例に抵触するような差別的言動が市内で行われなくなってきたということは、一定の効果があったのではないかなとは思っています。

ただ、条例に抵触しないからといって何でも許されるというものではないと思っていますので、これからも引き続き粘り強く、この条例の理念と差別のない社会ということに、関係者の皆さんとしっかり取り組んでいきたいと思っています。

《扇島及び周辺地区の土地利用について》

【共同（幹事社）】 ありがとうございます。すみません、もう一点、JFE扇島の跡地利用について、基本的な考えがまとまりました。市長のマニフェストにも書いていらっしゃるこだわりの事業だと思うんですけれども、雇用創出ですとか脱炭素に資するような利用……。

【市長】 え、ごめんなさい。

【共同（幹事社）】 雇用の創出ですとか脱炭素を先導するような事業をやられるという事で、まず、御期待感をお聞かせください。

【市長】 そうですね。川崎市がこれまで歴史的に、また、経験したこともないような大規模な土地利用転換ですので、相当広大なもので、これから長期にわたっていきますゆえに、何段階に分けてという形になっていきますけれども、基本的な考え方で示したとおり、脱炭素に資するような取組ですとか新しい産業というのを、まさに日本を引っ張っていくような産業立地というのをこれから誘導していかなくちゃいけないので、そういう意味では、川崎市のためということもあるかもしれませんが、首都圏全体あるいは日本をリードしていくような、そういうエリアにしていかななくちゃいけない、ある意味、国家プロジェクトだと思っています。

それを川崎市と、それから地権者さんであるJFEホールディングスの方たちとも協力し合いながら取り組んでいきたいと思っています。川崎市の今後100年を大きく占めていくような、そんな土地利用転換になるように努めていきたいと思っています。

【共同（幹事社）】 ありがとうございます。

幹事社からは以上です。各社さん、お願いします。

《東京湾アクアラインの25周年について》

【読売】 読売新聞です。今月でアクアラインが開通して25周年なんですけれども、四半世紀がたちまして、整備効果をどのように御覧になっているかをお聞かせください。

【市長】 それは、そうですね、全く想定外だったんですけれども、確かに料金が森田知事のときにぐっと下がって、それから非常に利便性の高いものになったと思っていますし、千葉県あるいは川崎市側、こっち側の往来も非常に激しくなってきたという意味では、広域的な地域経済の発展になっているのではないかなと思っています。

ただ、週末とかはすごい渋滞で、大変だということも承知していますし、この辺りが課題かとは思いますが、ああいうビッグプロジェクトの意味というのはすごくあるんじゃないかなということ、すごく時間がかかったプロジェクトですけれども、本当に意義のあるものではないかなとは思っています。

【読売】 もう一つ、今後なんですけれども、千葉側との交流であったり、アクアラインをどう活用していきたいかといったもの、期待感も含めてお聞かせください。

【市長】 アクアラインが直接的なものになるかどうかは分かりませんが、今後、私たちは水素のプロジェクトを様々やっていますが、川崎市がやはり大きな水素

の供給拠点になっていく。そして供給先というのは、この前、横浜と連携を結びましたし、羽田空港とも今、始まっています。そういう意味では、東京あるいは千葉、こういった広域なところの連携というのが出てくるので、より東京湾を、今ですと川崎を中心としてというか、拠点として、広範囲に水素ということがありますけれども、もう少し大きなピクチャーで見ると、東京湾全体を俯瞰したものというのが、今後、水素だけではなく、いろんなものが出てくるんじゃないかなと思っています。その中で重要なインフラになると思います。直接的に水素というのとは関係ないかと思えますけれども。

【読売】 ありがとうございます。

《サッカーワールドカップについて》

【時事】 すみません、時事通信です。ワールドカップに戻りますけれども、せっかく出身者ですとかフロンターレの関係とか、若い力ができたということで、今後、もっと下の世代とか、その辺に対する支援ですとか取組は何かお考えでしょうか。

【市長】 やはりサッカーに限らずですけれども、スポーツできる環境を整えていくということはとても大事なことだと思っています。そういう割には、やっぱり川崎は土地が非常に、利用できるところが限られているので、どういう工夫をしていくかがこれからも問われると思いますし、例えば、ちょっと過去の事例でありますけれども、等々力の中でクレーだったサッカー場を、ごめんなさい、2002年のワールドカップを目指して造った天然の芝を、フロンターレからの寄贈という形で人工芝を用意して、市とフロンターレとの協力でもって常時使えるようにしていく。そういったような取組は、まさに地元自治体とフロンターレがやってきたスポーツ施設の環境整備の一つだと思いますし、いろんなところでそういう工夫をしていかなくちゃいけないんじゃないかなと思います。

それからやっぱり、繰り返しになりますけれども、フロンターレに限らず、バスケットだとか様々な、アメフト、ラグビー、バレーボール、そういった地域のスポーツパートナーの皆さんと、そういうものに、スポーツの楽しみ、それぞれの競技の楽しみに触れていくという、ふれあいスポーツ教室みたいなのも去年からさらに充実させていますし、そんな取組も必要かなと思っています。

いずれにしても、自分のスポーツを、できるスポーツというのを子どもの頃からしっかり見つけて、それを大人たち、プロの人たちも含めてしっかりサポートしていくということが、今のサッカーの、よく最近言われてきたのは、昔清水、今川崎みたいな、サッカー王国になってきたというのは、極めて地道な努力の成果だと思っています。

すので、そういうものをしっかりと継続できるように、市としても協力していきたい
と思っています。

【司会】 ほかにございますでしょうか。

それでは、以上をもちまして市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した
上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)0312